

令和元年度 学校評価 自己点検学校評価

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>地域からの期待はこれまで以上に高まり、特色のある学校づくりが求められようになってきた。生徒が自らの未来を切り拓き、地域の未来に貢献するために「生きる力」を身に付けさせる。そのために主体的・対話的で深い学びを導入し、キャリア教育の視点を踏まえて地域と連携した学びを実現するなど、特色のある学びのフレームを構築し、魅力ある教育活動を実践していく。</p>		
<p>項目 (担当)</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>評価結果と課題</p>
<p>学習指導 (教務部) (特別活動部) (図書研修部) (教科会)</p>	<p>基礎的・基本的な知識定着を前提とする「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して、一層の授業改善に取り組み、主体的な学びを通して生徒の自己有用感を高める教育活動を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人の多様な特性を理解し、計画的な学習活動を促すことを通じて、学習習慣を確立させる。</li> <li>指導法を工夫し、体験的・探求的な学習を導入して、学ぶ楽しさや成就感を体得させる。</li> <li>部活動、学校行事等、授業以外の場面で学びの大切さを理解させるために、読書活動などメタ認知の育成につながる活動を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業評価アンケートを実施して授業の実態を把握し、授業改善を進めた。今後も新学習指導要領で期待される深い学びを研究し、主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりが課題である。</li> <li>生徒会活動では、主体的に生徒が計画、実行できるよう、あらゆる場面で働きかけ、成果を上げることができた。小さな成功体験を積み重ねることにより、大きな行事においても生徒自身が達成感を感じる場面を増やすことが、今後の課題である。</li> <li>年間を通じて読書啓発の活動を進めることができた。図書館を、主体的・対話的で深い学びを実践する場として、効果的に活用できる方法を模索していくことが課題である。</li> </ul>
<p>人権教育 いじめ防止 (生徒指導部) (特別活動部) (保健厚生部) (教育相談係)</p>	<p>集団活動を通して、規律を尊重し他者と協調しながらより良い生活を築こうとする態度を養う。 ・命の大切さを知り、自分を大切にするとともに他人の感じ方を思いやる能力を育てる。 ・いじめを許さない雰囲気をつくり、同時に支援を必要とする生徒をいち早く察知し、教員が組織的に対応できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各行事や活動を通じて集団への所属感や連帯感を深めさせ、公共の精神を養うとともに協力してより良い学校生活や社会生活を築こうとする「主権者としての態度」を育てる。</li> <li>教育相談委員会、いじめ・不登校対策委員会の充実を図り、個別の生徒に対する支援チームを立ち上げるなど、迅速にかつきめ細かく対応できる体制を常時整えておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>12月の人権週間に合わせて「命の大切さを学ぶ教室」と題して、安城警察と連携して犯罪被害者の家族の方による講演会を実施した。</li> <li>年2回「学校生活アンケート」を実施し、いじめの把握に努めた。アンケートからいじめを想定させる記述をした生徒に対しては担任による個人面談を行い、事実関係を確認した。現在のところ、いじめは認知していないが、アンケート実施時だけではなく、日常生活の中でいじめを早期に察知できるような組織の構築が課題である。</li> <li>行事や部活動では、リーダーの育成を心掛け、生徒自身に責任をもたせる場面を意図的につくった。それを生徒全体に浸透させるためには、議会やHR活動、意見箱への投書を通して、生徒自身に学校に目を向けた生活を送らせることが必要である。今後は、生徒の現状を確実に把握して必要な指導を検討し、同時に、社会からの要請の変化に伴う校則の見直しなど、さまざまな視点から柔軟に学校づくりを進めていく必要がある。</li> </ul>
<p>キャリア教育 (進路指導部)</p>	<p>キャリア教育コーディネーター活用事業を活用し、学校外との連携による「開かれた教育課程」の実現を目指す。 育てたい能力を明確にして、学校全体でその育成に取り組む体制をつくり、生徒が積極的に自らのキャリア形成に取り組める環境を整備する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な探究(学習)の時間及びLITなどを活用し、生徒が自己の特性や適性を把握し、自己の将来を展望できるように指導する。</li> <li>生徒の進路実現に資する職員の指導力の向上のための研究会を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育コーディネーターと連携し、8月にインターンシップを実施した。9名の希望者が実際に企業へ行き、さまざまな体験をした。事前ガイダンスで、目標やインタビューの内容を考えるなど、周到に準備してから企業を訪問した。事後指導では、振り返りやグループワークを通して参加者の間で体験を掘り下げた上で、互いの学びを共有する発表会を開いた。「今の学びがこの先につながっていることが実感できた。」など、前向きな感想が多数出され充実した取組となった。</li> <li>新学習指導要領の実施に向けて情報の収集を行い、学年主任会などで話題にして伝達することができた。引き続き授業改善を進め、新学習指導要領の趣旨に沿った指導ができるようにする必要がある。特に、経験年数が浅い教員を対象とする研修を行う必要がある。</li> </ul>
<p>安心・安全な 学習環境の整備 (総務部) (生徒指導部) (保健部)</p>	<p>学校内の環境を整備し、生徒が安心して快適に学習に取り組むことができる環境を整える。同時に、生徒が安全に登下校できるように安全指導の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常の清掃活動を中心に、不要物の処分や保管場所の適切な設定を進めて校内美化と防災対応の両立を図る。その成果は生徒美化委員や、安全衛生委員の点検によって検証する。</li> <li>地域の一員としての意識を育てるために、交通安全指導を継続するとともに、防災の面においても、地域に貢献できるように、自助・互助の精神を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登下校時の交通事故防止のため、毎朝の立番指導とともに、朝礼を利用して交通ルール・マナーの遵守について指導した。また、PTAの協力を得て「交通安全マナーアップ運動」を年4回行った。交通マナーの向上にはこれで十分という限界はないが、地域の方々からいただいた交通安全に関する情報を活用して指導したい。</li> <li>生徒は日常の清掃活動に自発的に取り組んでいるとはいえず、教員側で清掃指導の工夫をする必要がある。一方で、保護者からは老朽化が進んだトイレの改修の要望が高まっている。安全点検で指摘された異常箇所は、用務員さんが迅速に対処しているが、限界もあり、県による改修工事が早期に実現することを期待したい。</li> <li>年間2回の防災訓練に合わせて防災新聞を発行して防災意識の向上を図った。また、防災訓練の避難開始場所を変更したり、防災新聞に非常食の試食体験記事を載せるなど試みた。</li> </ul>
<p>総合評価</p>	<p>学校に対する社会の要請は、年々多様化している。この状況に対応するためには、育てたい生徒像を明確にして近隣の普通科高校との差別化を図り、「本校の特色」を積極的に打ち出す必要がある。外部からの要請に追われるのではなく、本校が目指す教育に地域の方々共感し、入学を希望していただけるような関係を築くために、さらなる努力が必要である。</p>		